

お知らせ

INFORMATION

No.2021-16
2021年5月
病体生理研究所

新規検査項目受託開始及び受託中止のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記検査項目におきまして、新たに受託を開始および受託中止とさせて頂くことになりましたので、ご案内申し上げます。

何卒、ご利用頂けますようご案内申し上げます。

敬具

記

【新規受託開始について】

- ◆ ロイシンリッチα2グリコプロテイン (LRG) [16424]

…検査実施施設 (M)

- ◆ SCCA2 [16250] …検査実施施設 (シノテストサイエンス・ラボ)

※項目情報裏面参照

《受託開始日》: 2021年5月24日（月）受付分より

【検査中止項目】

- ◆ 高感度CRP [14949] …検査案内未掲載 検査実施施設 (S)

- ◆ 抗肝細胞膜抗体 [13470] …検査案内未掲載 検査実施施設 (S)

検査実施先検査中止のため
代替項目はございません。

《最終受付日》: すでに中止となっております。

【新規項目情報】

| | |
|-------------|--|
| 項目名称 | ロイシンリッチ α 2 グリコプロテイン (LRG) |
| コード | 16424 |
| 検体材料 | 血清 0.5mL |
| 保存 | 冷蔵 |
| 採取容器 | No.1 → No.5 |
| 検査方法 | LA 法 |
| 基準値 | 16.0 未満 μ g/mL (炎症性腸疾患の活動期の判定補助における参考基準値) ※1 |
| 所要日数 | 3~5 日 |
| 実施料 判断区分 | 276 点 (D003 9) ※2 生化学的検査 I |
| 備考 | <p>※1 健常者参考値 : 6.48~13.92 μg/mL 感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍において LRG 値が上昇することがありますのでご注意ください。</p> <p>※2 血清検体として、LRG を潰瘍性大腸炎またはクロhn病の病態把握を目的として測定する場合は、3 月に 1 回を限度として算定できます。ただし、医学的な必要性から、1 月に 1 回行う場合は、その詳細な理由および検査結果を診療録および診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。 潰瘍性大腸炎またはクロhn病の病態把握を目的として、「LRG」、「便中カルプロテクチン」または「大腸内視鏡検査」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。</p> |

ロイシンリッチ α 2 グリコプロテイン (Leucine-rich alpha 2 glycoprotein ; LRG) は炎症性腸疾患 (Inflammatory bowel disease ; IBD) の覚解期と活動期を反映することができる新しい血清バイオマーカーです。

IBD は原因が明らかにされていない慢性非特異性腸炎の総称で難病指定されており、潰瘍性大腸炎とクロhn病に分類され、腹痛、下痢、血便などの症状を再燃と覚解を繰り返しながら慢性的に推移する炎症性疾患です。比較的若年に発症し、日本における患者数は 21 万人以上と推測されており、増加傾向にあると考えられています。

治療には近年の生物学的製剤の進歩により、炎症抑制に有効な TNF- α 阻害剤が開発され、ステロイド剤などと組み合わせることにより炎症の沈静化や再燃予防が可能になりました。しかしそのためには疾患活動性を適切に判断することが必要であり、侵襲性の高い内視鏡検査に頼らない炎症性マーカーの登場が待たれています。

糞便を材料とするカルプロテクチンは IBD の診断補助（糞便材料のため疾患特異性が高い）に、一方、血清を材料とする LRG は IBD の活動期の判定補助に有用です。潰瘍性大腸炎の活動期の判定には臨床指標 (CAI : Clinical Activity Index)、CRP および LRG の組み合わせが有用であり、クロhn病においては臨床指数 (CDAI : Crohn's Disease Index)、CRP および LRG の組み合わせが、活動期の判定補助に有用です。

参考文献 : 伊藤 いづみ, 他 : 臨床栄養 135 (6) : 748-750, 2019.
飯田 智哉, 他 : IBD Research 10 (4) : 212-217, 2016.

| | |
|------|---|
| 項目名称 | SCCA2 |
| コード | 16250 |
| 検体材料 | 血清 0.3mL *1 |
| 保存 | 絶凍 |
| 採取容器 | No.1 → No.7 |
| 検査方法 | EIA 法 |
| 基準値 | 1.6 未満 ng/mL |
| 所要日数 | 13~27 日 |
| 実施料 | 300 点 *2 |
| 判断区分 | 144 点 (免疫学的検査) |
| 備考 | <p>*1 SCCA2 は、皮膚表皮、唾液、汗、その他の体液などにも存在します。これらが混入あるいは接触した検体、器具などを用いると測定値が高くなる場合があります。検体、器具などを取り扱うときは、常に手袋とマスクを着用して下さい。</p> <p>*2 15 歳以下の小児におけるアトピー性皮膚炎の重症度評価を行うことを目的として測定した場合は、区分番号「D014」自己抗体検査の「35」抗デスマグレイン1 抗体 の所定点数を準用して、月 1 回を限度に算定できます。ただし、本検査と「TARC」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。</p> |

【重症度の目安】

| | 血清SCCA2値 (ng/mL) |
|-----|------------------|
| 軽症 | 1.6~2.6 未満 |
| 中等症 | 2.6~6.0 未満 |
| 重症 | 6.0 以上 |

SCCA (squamous cell carcinoma antigen) は、セルピン (serpin) スーパーファミリーに属するセリン プロテアーゼインヒビターで、主に上皮細胞から産生されるタンパク質です。SCCAには、SCCA1とSCCA2というアイソフォームが存在し、アミノ酸レベルでの相同性は91%と非常に高いものの、異なる 遺伝子座から転写される独立した遺伝子産物です。SCCA2は、アレルギー性炎症において中心的な役割を果たすIL-4やIL-13によって誘導されます。また、小児のアトピー性皮膚炎 (AD) 患者血清で上昇し、AD重症度の指標である Objective-SCORAD と相關します。ADにおける重症度の評価は適切な治療選択に重要であり、血清SCCA2値は小児ADの重症度の 指標として有用なマーカーです。本検査は、15歳以下の小児を対象として2021年2月より検査実施料が新規収載されました。

参考文献 : Nagao M, et al. : J. Allergy Clin. Immunol. 141: 1934-1936, 2018.

以上